

2015

4月号

平成27年度麻生区地域課題対応事業
「あさお市民活動レポート」第2巻 第11号
発行日：平成27年4月1日

あさお市民活動レポート



Asao friends

発行元：NPO法人あさお市民活動サポートセンター

目次

活動している団体を「やまゆり」は応援しています	1
ポプラ・ささえあい	2
でめきん座	2
コール片平チェリース	3
新百合テン・ホールズ	3
突撃取材 麻生のボーイスカウト	4

第8回 ビバ！かがやく子どもたち 5月31日

子どもに関連する団体が集い、実演などを通じて活動内容を紹介しています。「科学教室」「囲碁教室」「折り紙講習」「おもちゃ病院」など目標をもって頑張っている子どもたちを応援します。



●活動ぶりをサポートしています

第4回 ホームページ作成工房 6月20日・6月27日

活動において自己紹介にホームページ（HP）を見てくださということが常識になってきました。単なる講座でなく、最後までHPを仕上げることにしています。すでに受講された14団体が作成されています。



活動している団体を「やまゆり」は応援しています

麻生区の市民活動の拠点として

麻生区のコミュニティの核となる施設として

位置づけされている「やまゆり」

今年度もいろいろな形で市民活動を応援していきます

●活動分野ごとの交流が恒例化してきました

第5回 クラフト展

未定

芸術・手芸品などに日々研鑽をつとめている団体が作品の展示を行います。実演体験もできるコーナーもあり、新しい趣味の発見をされているかも多いようです。



第3回 楽芸会

11月14日

区内の音楽・芸能に取り組む団体・個人が一同に集まり、日頃の成果を発表されます。楽器演奏・朗読・舞踊・和太鼓・古典芸能など盛り沢山で、インターネット中継が行われます。終了後、懇親会で連携を深めます。



●活動資金を援助しています

地域コミュニティ活動支援事業

区内の市民活動団体などが行う「地域の新たなコミュニティづくりにつながる事業」を支援するために事業資金を助成しているものです。平成20年度からはじまり、26年度は公開プレゼンテーションの結果、7団体に助成金が交付されました。

平成27年度 募集要項

- ♥応募資格 麻生区を活動拠点とする5名以上の組織
- ♥前年度報告会 4月7日(火)
- ♥応募説明会 4月7日(火)
- ♥応募締切 4月22日(水)
- ♥審査 4月27日(月)

*応募方法 指定の応募用紙にて郵送もしくは持参



預かった幼児と童心に帰って楽しく遊ぶ

ポプラ・ささえあい

代表：荻生 和成

連絡先：☎044-987-3964

設立：2013年11月

会員：16名（男性5名、女性11名）

会費：なし

支援費：原則1件100円（事務費として）

時間：1時間程度

活動日：適時

活動場所：白山新ゆりグリーンタウン内
ポプラ街区

近隣からの希望に応じて、ちょっとしたお手伝いをする活動をおこなっている。その内容は、話し相手、電球の取り替え、ゴミ出し、家具の移動、不用品の処分、灯油の買い出し、乳幼児の一時保育、車椅子での移動介助、近くでの買い物や診療所への付き添い、不在時の植木の水やりなど。手におえないときは他の専門組織を紹介する。

もともと、麻生区全域で同様の活動をしている団体の会員の中から、近隣に絞って、もっとフットワークよく活動できないかという声上がり、ポプラ街区から協力者を募ってこの会を立ち上げた。はじめて1年余りであるが、すでに40件ほどの実績を積んでおり、リピータも出てきている。活動とは別に、宣伝をかねて、車椅子の使い方や、オレオレ詐欺の撃退法の講習会を開い

たりしている。また、団地内のおしゃべり会などとも連携している。

日本は高齢化が進み、支援を必要とする家庭が増えており、麻生区も例外ではない。これからは、地域でのちょっとした助け合いが、ますます大切になっていく。そのかたちのひとつとして紹介した。きっかけは笑顔のあいさつと優しい声かけ。



会のシンボルは、優しさにあふれている

取材・文 区民記者 中島久幸

でめきん座

太鼓の響きの持つ力を届けたい

太鼓の音のあいだに「えいっ！」と、女性の勇ましい掛け声が麻生市民交流館やまゆりのサロンに響く。昨年、秋の第2回やまゆり楽芸会に初参加した「でめきん座」メンバーの声だ。

この会は2008年、幼稚園（町田）父兄会の太鼓のサークルから生まれた。奇妙な会名の由来は、みんなで集まるところに出目（でめ）金（きん）が泳いでいたからという意外な答えが。

メンバーは現在10名、川崎太鼓仲間“響”に属し、月2回火曜日の午前中に指導を受けている。

太鼓をたたいているとき、お腹にドドンと強く響く感じが何ともいえない。メンバーと太鼓を合わせると、日常から離れている世界に浸れる喜びがあり、夢中になってしまうという。

悩みは、音が大きいので練習会場の確保と、全員主婦なので子どもの成長とともに練習時間をあわせるのも一苦労、太

鼓のレンタル代もばかにならない負担となっている。

それでも、老人ホームを訪問し、祭り太鼓をたたいたとき、自分が若かった頃の祭りを思い出して涙ぐむお年寄りから、逆に太鼓のもつ力を実感させてもらった。

「これから、積極的に祭りや・施設の慰問にと、地域で活躍する場面を増やしていきたい。ぜひ声をかけて欲しい」

と、リーダーの下森美穂さんは語る。

「やまゆり楽芸会」での演奏風景
(2014年11月)



でめきん座

代表：下森 美穂

連絡先：携帯☎090-8496-9347

設立：2008年4月

会員：10名（女性10名）

会費：3000円/月

活動日：月3回（火曜日の午前中）

活動場所：公民館 市民センター

取材・文 区民記者 植木昌昭

コール片平チェリーズ

歌声は楽しさと健康をつれて

合唱団コール片平チェリーズ(以下「チェリーズ」という)の舞台に接した人は、「どんなサプリメントを使えば、こんなにきれいな声が出せ、元気になれるのだろう」と思うに違いない。それくらいチェリーズの歌声は美しく、また誰もが輝いている。関係者によれば「男声は若く美しい響き、女声は天女のような澄んだ歌声」とのことである。

チェリーズは2005年に発足し、現在まで「楽しく歌って元気なシニア生活を」という目的で活動を行っている。平均年齢は77歳(最高齢は90歳!!)とのことだが、活動は活発で、毎月1回丸山博子さんのユーモラスかつ熱意あふれるレッスンのほか自主練習も行っている。昨年は麻生音楽祭、プラチナ音楽祭

(ミュージア川崎シンフォニーホール)、新百合ヶ丘のイルミネーション点灯式へ出演したほか、介護施設訪問、小学校での音楽交流のボランティア活動も行なった。

チェリーズでは、今会員を募集している。合唱は、楽しくストレスを解消できるだけでなく、健康増進にも効果があるとされている。自分に有益だけでなく、社会貢献までできるという、結構すくめの話ではないだろうか。見学も大歓迎とのことである。

取材・文 区民記者 仲原照男



イルミネーション点灯式での模様(2014年11月)

コール片平チェリーズ

代表者: 星 勇二

連絡先: ☎044-987-6530

e-mail yuji293@hotmail.co.jp

設立: 2005年4月

会員: 32名(男性7名、女性25名)

会費: 適宜徴収(定額のものはない)

活動日: 丸山さんのレッスン(月1回)

自主練習 など

活動場所: 五月台自治会館
(変更の場合あり)



手のひらに収まる大きさと、ポケットに入れて持ち歩ける「テンホールズハーモニカ」。音色はセンチメンタルで、聴く人の心を震わせ、なぜか懐かしさを感じさせる。

ブルース演奏と共に普及したので「ブルースハープ」とも呼ばれる。アーティストの『ゆず』や『長渕剛』が、かつて弾き語りブームを巻き起こした、あのハーモニカだ。

このハーモニカに魅せられた集まりが「新百合テン・ホールズ」。ジャンルを問わず、唱歌、映画音楽、ブルース、ポップスと、聞き覚えのある歌はなんでも演奏を楽しむ。

指導者は、若きミュージシャン・皆川和義さん。練習がはじまると空気がきりりと締め、メロディーを吹く姿は真剣そのもの。終わると、ふーっと一

心に響き郷愁をさそう ハーモニカの音色

←横一列に10個の穴が並ぶテンホールズハーモニカは、長さ10cm、重さ60gほど。穴番号の数字譜も用意しているから、譜面を読めない人も大丈夫

今回は「テネシーワルツ」の合奏ではじまり、息を吸いながら音を下げる、バンド練習を行った



息、楽しい会話にもどる。

このハーモニカの魅力を聞いた。「ポータブルで安価で、音色も魅力的。手軽な最高の楽器ですよ」と高田さん。

だが、この楽器は簡単そうに見えて、なかなか奥が深いようだ。単音のみでなく、吹き方、舌の使い方ですさまざまな音を出せる。だから、個性的な、その人にしか出せないアナログ音がでる。

およそ3000円で買える、この小さな楽器。日々のくらしのなかで、懐かしい歌を吹いて、楽しんでみませんか。

新百合テン・ホールズ

代表: 高田 敏行

連絡先: 携帯☎090-4220-1087

e-mail BTakada@aol.com

設立: 2014年4月

会員: 11名(男性7名 女性4名)

会費: 入会金なし 参加費1000円/1回

活動日: 毎月末 1回(2時間)

活動場所: 麻生市民館

川崎市アートセンター

*会員募集中! (初心者也大歓迎)
随時見学OK

取材・文 区民記者 石崎純也

突撃レポート

ペンとカメラを携えて
記者が行く行く
今日も行く



輝け 太陽の子どもたち - 麻生のボーイスカウト



冬のスキーキャンプ(2015年1月、斑尾高原にて第53団)

ボーイスカウトは20世紀初頭、英国に誕生した世界的規模の青少年育成団体。太陽のもとでの野外団体訓練をとおし健全な心身を養い、社会性を身につけ、街頭募金・地域での清掃など社会貢献・奉仕活動を体験し、料理・工作・救護術など生活技能も習得する。

小学校入学1年前の4月から入団できる。女子の入団もOK。25歳までのスカウトが年齢により5グループに編成され、麻生区では川崎第43団、第53団が活動している。



「団ハウス」でジャガイモの種植え(2015年2月、第53団)

第53団では団委員長関口氏から300坪ほどの敷地(柿生)の提供をうけ、ここがテント生活をしたり、キャンプファイヤーを囲んだり、野菜栽培の実習をしたりの「団ハウス」となっている。小田原、鎌倉など近郊でのナイトウォークは年に1度の定番訓練だし、山野での夏キャンプ、冬のスキーキャンプも大きな楽しみだ。

2015年夏には山口市・きらら浜で世界スカウトジャンボリーが開催され、世界中から約3万人のスカウトと関係者が集まる。大会前後には約6千人が日本各地でのホームステイを希望し、川崎市内でも受け入れ家庭を募集している。

スカウトを卒業した3人の男子の父親、鈴木さんは「団で学んだことが社会にでてから大いに役だっているようだ」と頼もしげに語る。

ピバ、スカウト。

取材・文 区民記者 飯田保幸

★ボーイスカウト川崎第43団 (千代ヶ丘地区)

団委員長: 渡辺 悦男
連絡先: 塩野浩史
e-mail: shioshiono926226@estate.ocn.ne.jp
設立: 1968年4月
スカウト数: 90名(男子68名, 女子22名)
隊費: 団費等年間4万2000円
毎月3500円引落し(夏冬キャンプは別途)
活動日: おもに日曜日、月3回ほど
活動場所: おもに川崎市内・周辺

★ボーイスカウト川崎第53団 (柿生地区)

団委員長: 関口 靖邦
連絡先: 鈴木 和宏 ☎046-204-7928
設立: 1980年6月
スカウト数: 51名(男子48名, 女子3名)
隊費: 団費等年間3~4万円(一括払い、夏冬キャンプは別途)

そのほかは43団に同じ

取材申込受け付けます!

「活動を紹介して欲しい」「イベントを取して」
そんな声に記者が応えます。

お申込みいただいた内容については編集会議で可否を検討したうえ、改めてご連絡させていただきます。

●応募条件

麻生区を拠点に活動している。または、麻生区在住・在学・在勤者が活動に参加している。

●申し込み方法

1. 団体名 2. 代表者名 3. 連絡先(電話・FAX・メール)
4. 活動内容(イベントの場合は開催日時・料金・内容)を、「あさお区民記者」宛てにFAXまたはメールでご連絡ください。

FAX.044-951-6467

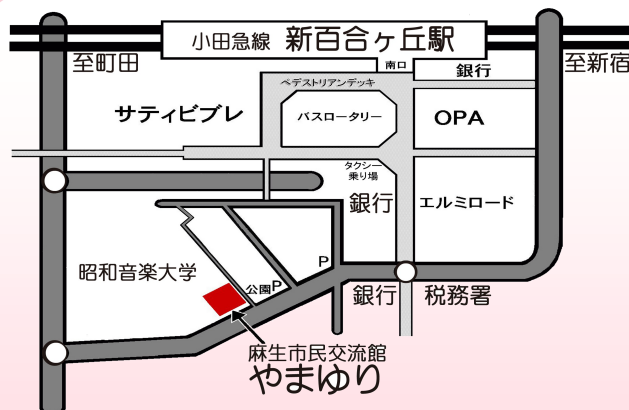
Mail info@asao-ku.net

※但し、選挙、政党・政治団体など政治活動に関わるもの、宗教団体による布教推進を目的とするもの、プライバシーの侵害や業務妨害のおそれのあるもの、差別を助長するものは掲載できません。

あさお区民記者

「区民による 区民のための情報発信」を目的に活動。
過去の記事や取材後記はホームページをご覧ください。

<http://www.asao-ku.net>



〒215-0021 神奈川県川崎市麻生区上麻生1-11-5
Tel.044-951-6321 Fax.044-951-6467
URL <http://web-asao.jp/yamayuri/>
Access 小田急線「新百合ヶ丘駅」南口から徒歩4分